

児童生徒の学力向上を目指した授業改善の在り方

―校内研究と関連付けた「授業力向上支援シート」の作成を通して―

【研究の概要】

児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせるために授業を改善することが求められており、そのため個々の教員が日常の研さんを通して授業力を高めることが重要であると捉えました。

そこで、本研究では、個々の教員が抱える授業力の課題に注目し、自分の課題を解決するために「学んだことの活用と振り返り」を繰り返す取組を、校内研究と関連付けて進められるよう「授業力向上支援シート（※）」を作成しました。校内研究の場を活用して授業力の向上を図り、授業の改善につなげる取組を追求しました。

※「授業力向上支援シート」について

個々の教員が目的をもち、継続して授業力向上に取り組むことができるように活用する各種シートの総称です。

Q. なぜ授業力向上なのか？

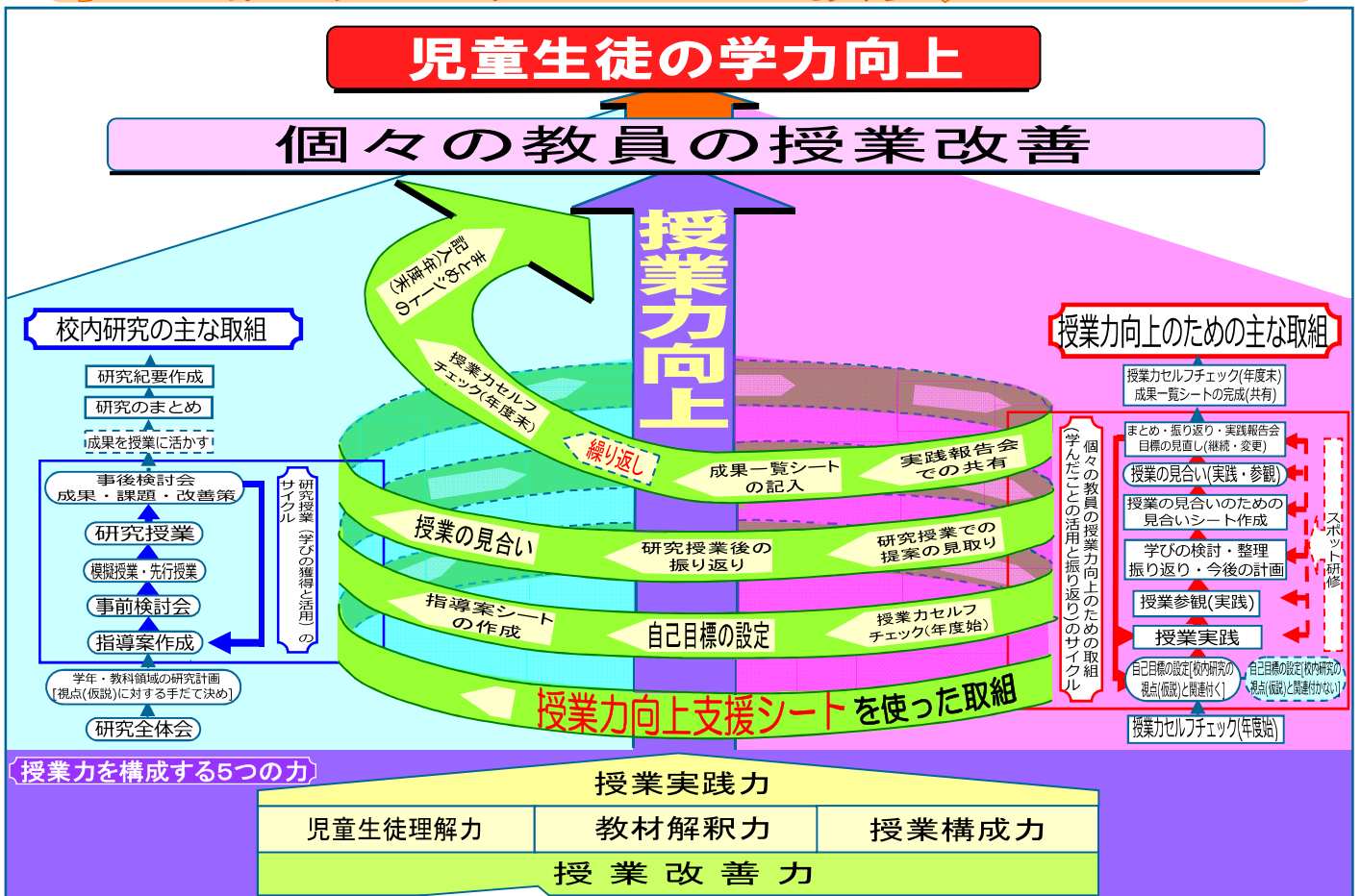
平成24年8月の中教審答申では、児童生徒に21世紀を生き抜く力を育成するために「**新たな学びを支える教員の養成**」と「**学び続ける教員像の確立**」を求めています。学校として、これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育を展開していくためには、個々の教員が学ぶ意識を高くもって授業力向上を図り、授業改善を進めていくことが大切です。

Q. なぜ校内研究と関連付けるのか？

個々の教員が自分の授業力向上のために新たに研修時間を設定するには、難しい現状があります。時間設定が難しいからこそ、限られた研修の時間や場を有効に活用することが求められます。

本研究では、教員の課題意識に沿った授業力向上の取組が無理なく進められるように「授業力向上支援シート」を作成し、各学校で推進している校内研究と関連付けました。これにより、自分の授業力向上という明確な目的や自己目標をもって校内研究に取り組みながら、授業改善を進めることができます。

学び続けるすべての教員のために



本研究では、授業力を5つの力で押さえています。5つの力の中でも授業改善力を重視しています。授業改善力は授業力の土台となり、児童生徒理解力・教材解釈力・授業構成力・授業実践力を伸ばす役割を担います。教員が「学んだことの活用と振り返り」を繰り返し、授業力を構成する5つの力の向上を図ります。「授業力向上支援シート」で「目標設定・活用・蓄積・共有・振り返り」を行い、授業力向上の取組を支援します。

校内研究と関連付けた授業力向上のための取組

① 年度始の取組

(1) 授業力向上へ向けた取組のプレゼンテーション

全教員で共通理解を図る
ガイダンス1 「授業力向上を目指して」「自己目標を立てよう」

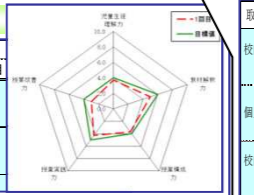
研究主任

- ①ガイダンスを通して、授業力向上のための取組について共通理解を図る
- ②個々の高めたい授業力が、校内研究の視点（仮説）と関連付くように助言する
- ③自己目標の共有を図る

(2) 授業力のセルフチェックと自己目標の設定

自分を知らずには「授業力のセルフチェック」をする

番号	分類	診断項目	評価	
			1回目	2回目
1	児童生徒の学習意欲	児童生徒の学習意欲をいろいろな見方で把握しようとしている。	5	5
2	児童生徒の学習内容の定着状況	児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようとしている。	3	5



自己目標を校内研究と関連付けて設定する

取組の方向性	向上のための具体的手立て
校内研究で取り組む	通用問題に取り組む場面で、ねらいに関わる学習内容の定着状況を把握するための問題を設定し、ノートでチェックする。
個人で取り組む	共感的な受け止めスキルを高めるため、書籍や研究会に参加すると共に、普段の授業でも挙げていく。
校内研究で取り組む	考えを引き出す課題提示ができるように、教材や資料の分析を行う。

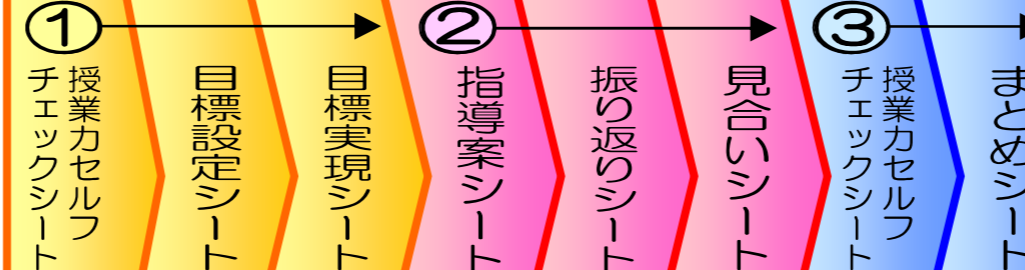
(3) 自己目標を絞り込んで達成へ向けてスモールステップを設定

自己目標達成へ向け、STEP1とSTEP2の2段階で設定する

達成へのSTEP1	7月20日まで	達成へのSTEP2	12月20日まで
年間指導計画の見直しを行い、学習のねらいを朱書きにより整理する。		授業を公開して、課題提示の場面でねらいにあった考えを引き出すために再構成した教材や資料の分析が適当であったか助言してもらう。	

「授業力向上支援シート」

個々の教員の授業力向上のための取組



校内研究の取組

② 学んだことの活用と振り返り

学んだことの振り返り

- (1) 成果・課題・改善策の検討
- (2) 振り返り・見直し・計画振り返りシート

ワークショップ型の学び合いで成果等の共有

個々に振り返り、授業の見合いを計画する

●今後の授業実践（授業の見合い）で取り組みたい

段階	学習の場面と手だて(○)	手だての内容
学習のまとめ	○自分の考えを深め、高め合う場の工夫	○キーワードを設定し、そこからそれを引き出す。

●高めたい授業力に関する自己目標の達成状況

STEP1	STEP2	目標	達成状況
○	△	○	△

学んだことの蓄積・目標等の見直し

- (1) 学んだことの記録・蓄積
- (2) 目標・手だて・ステップの再検討

「学びシート」「成果一覧シート」に記録・蓄積し、授業で活用する

学びシート

分類	学んだ内容
課題提示	既習の解き方や考え方を、いつでも見えるところに貼っておくと、個に対応した振り返りが可能になる。 つづきやきや課題への集中が促された。

成果一覧シート

段階	学習の場面と手だて(○)	手だての内容(●)	指導上の留意点(△)
導入	○生活場面と学習内容を結び付け関心を高める。	●問題文につながる場面絵を用いる。	△場面絵を用いて児童を引き付けるとともに具体的な問題場面が正確に捉えさせるようにする。課題解決後に場面絵に戻り、学習内容を生活場面につなぐ。

研究主任

- 成果の蓄積状況に応じて「目標設定シート」の手だてや「目標実現シート」の目標、STEP1、STEP2を再検討するよう促す
- 成果一覧シートを使って、個々の成果の共有を図る

③ 年度末の取組

(1) 授業力のセルフチェック

年度末に行う2回目の「授業力のセルフチェック」で変容を確認する

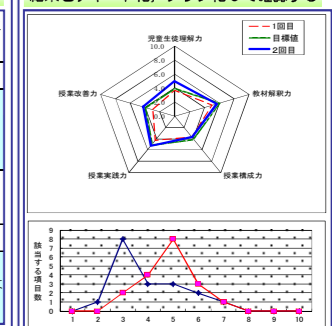
番号	分類	診断項目	評価		主な評価の観点
			1回目	2回目	
1	児童生徒	児童生徒の学習意欲をいろいろな見方で把握しようとしている。	5	5	●挙手やしぐさ、活動の様子等から、意欲を把握しようとしているか。 ●学習意欲を促進したり阻害したりする外的な要因を分析しているか。
2		児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようとしている。	3	5	●学習の様子、記述内容や提出物等から学習の定着状況を把握しているか。 ●評価を累積し、学習の定着状況を把握しているか。

(2) まとめシートを使った振り返り

目標とSTEP1、STEP2で振り返り、次年度へつなぐ

目標	学習のねらいを整理する。特に課題提示の場面では、ねらいにあった考えを引き出すために教材や資料を再構成する。
達成度評価	できたこと / できなかったこと
B	本時の学習のねらいは何かを意識するようになった。 / 再構成のための十分な分析ができたとは言えない。
STEP1	年間指導計画の見直しを行い、学習のねらいを朱書きにより整理する。
達成度評価	できたこと / できなかったこと
A	年間指導計画のねらいを朱書きして、整理することができた。 / ねらいを十分に絞ることができたとは言えない。

結果をチャート化、グラフ化して確認する



研究授業での実践・参観による学び

(1) 指導案シートの作成（授業者）

- ①授業での提案を通して、自己目標に迫る学びを得る
 - 研究の視点（仮説）に関わること
 - 自己課題の解決に関わること（私の提案）
- ②参観者の記入欄を設定し、学びの活用を図る
 - 参観の観点
 - 研究の視点、授業者の提案へのコメント
 - 授業から学んだこと

模擬授業や先行授業で、授業者や参観者が学びを得る

- 個々の教員は、学んだことを学びシートに記入
- 研究主任は、授業力を構成する5つの力の観点から参観して助言する教員を配置

(2) 参観視点の検討（参観者）

自己目標達成のために「どの場面で」「何を見取るか」を考え、事前に記入しておく

【どの場面で】	【何を】
○3 折や学習の進め方を確認する	○ねらいや実態に合う教材や資料を選択し、開示しているか

(3) 授業参観（実践）

研究主任
●授業記録を担当する教員の割当

参観者

- ①参観観点に基づく見取り
- ②授業者の記述に基づく見取り
- ③見取った事実の記述
- ④学びや気づきの記述
- ⑤助言、疑問、改善策等の記述

授業の見合いでの活用・振り返り

(1) 授業を見合う計画の立案（全教員）

- 研究主任
- ①予定表の作成
 - 月日、校時、学級名
 - 単元、提案の概要
 - 授業者の自己目標等
 - ②教員への周知
 - 校内LAN
 - 掲示物等

学年（部）、教科部

- ①グループ所属教員の取りまとめ
- ②授業の見合いの調整と実践

個々の教員

- ①見合いシートの作成
- ②提案内容の絞り込み

(2) 授業の見合い（全教員）

見合い授業で、学んだことを活用する



参観者

- 見合いシートの記入
- 授業後に学びシートの記入
- 見合いシートのコピーを授業者へ渡す

(3) 実践報告会（各グループ）

学んだことを話し合いを通して交流し、知識として共有する



スポット研修 7つの研修例を作成

授業力向上支援シートの特徴

- (1) 校内研究と関連付けて進めることを前提としたシート構成！
- (2) 個々の教員が見通しをもって学び続けることができるシート構成！
- (3) 協働の要素を取り入れたシート構成！
- (4) 個々の教員が成長を実感できるシート構成！
- (5) 研究の継続，学んだことを蓄積できるシート構成！

支援の場面を考慮して まとめたシート類

①シートを使用する前に

②自分の課題を把握するときに

授業力向上支援シート

※初めて使用する方は、「使用の仕方」のボタンをクリックしてください。

はじめに

課題把握

使用の仕方

授業力セルフチェックシート

記入例

ガイダンス

結果シート

初期設定シート

記入例

③目標達成のステップづくり

授業実践・振り返り

④授業を公開するときに

目標設定・まとめ

成果の記録・蓄積

目標設定シート

記入例

指導案シート

記入例

目標実現シート

記入例

見合いシート

記入例

まとめシート

記入例

振り返りシート

記入例

⑤学んだことをまとめるときに

スポット研修

⑥さらに研修を積みみたいときに

学びシート

記入例

進め方

No.1

成果一覧シート

記入例

No.4

No.5

No.6

No.7

宮城県教育研修センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉393
 電話：022-227-2626 FAX:022-213-8635
 URL <http://www.edu.-c.prof.miyagi.jp/>

平成24年度
 専門研究員

指導主事

授業改善・学力向上研究グループ

名取市立ゆりが丘小学校
 石巻市立蛇田中学校
 登米市立東郷小学校
 教職研修班
 企画研究班
 教職研修班
 企画研究班

三品 秀樹
 木村 徹之
 千葉 高
 山内 尚
 萱場 恒行
 市岡 良庸
 太田 克佳